

PartII（2）パネル・ディスカッション

## 「日本社会が選ばれるためにー外国人のライフプラン」

海外ルーツの子ども支援の現場から

特定非営利活動法人青少年自立援助センター

定住外国人支援事業部 責任者

田中 宝紀（たなか・いき）

URL <https://www.kodomo-nihongo.com/>

MAIL [info@kodomo-Nihongo.com](mailto:info@kodomo-Nihongo.com) Twitter @iki\_tanaka

### 【YSCグローバル・スクール／NICOプロジェクト（遠隔教育）】

海外にルーツを持つ子ども・若者のための専門教育支援事業

■対象者層：6歳以上

（10代が最も多い／就労希望者は別事業で対応）

■利用者数：年間約200名

■利用形態：通所ベース5割、オンラインベース5割

■ルーツ：フィリピン、中国、ネパール、ペルー、ガーナ  
ギニア、アメリカ、日本

■受講料：利用コースと回数により月2,000円～42,000円

■家庭状況：経済的に困難な家庭・ひとり親家庭約3割

奨学金等による減免・無償化

（奨学金のための資金はクラウドファンディングや寄付金などを活用）

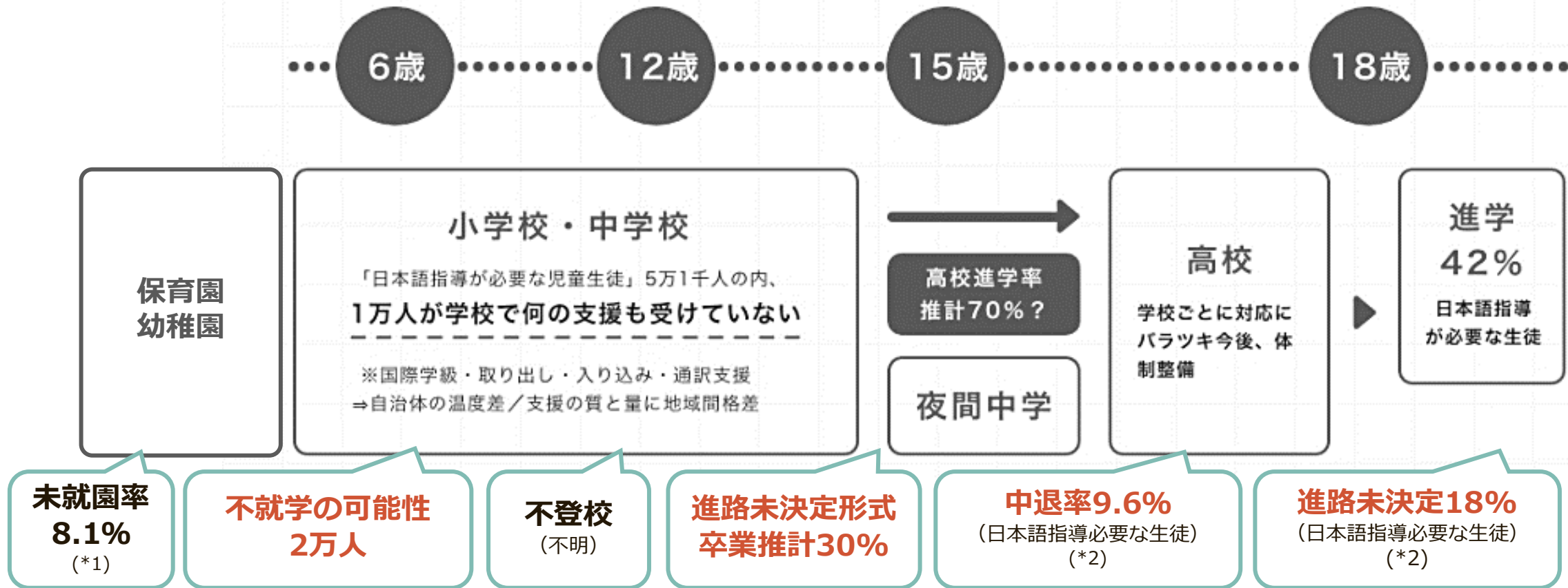
■97%が入所時のアンケートで「帰国の予定ない」と答える→日本で育つ、

「日本の子ども」。“卒業生”の中には出産・子育て世代も増加。



# 教育と就労の外側にいる子ども・若者たち

(\*1) 【『保育園に通えない子どもたち「無園児」という闇』、可知悠子、2020年4月、筑摩書房】参照。  
 (\*2) 【『「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（平成30年度）」の結果について』、文部科学省】参照。  
 (\*3) 【にほんでいきる「外国籍の不就学・不就労、日本籍の2倍超 言語教育足りず」】毎日新聞（2020年2月25日）、参照。



## セーフティネットが不足／機能しない

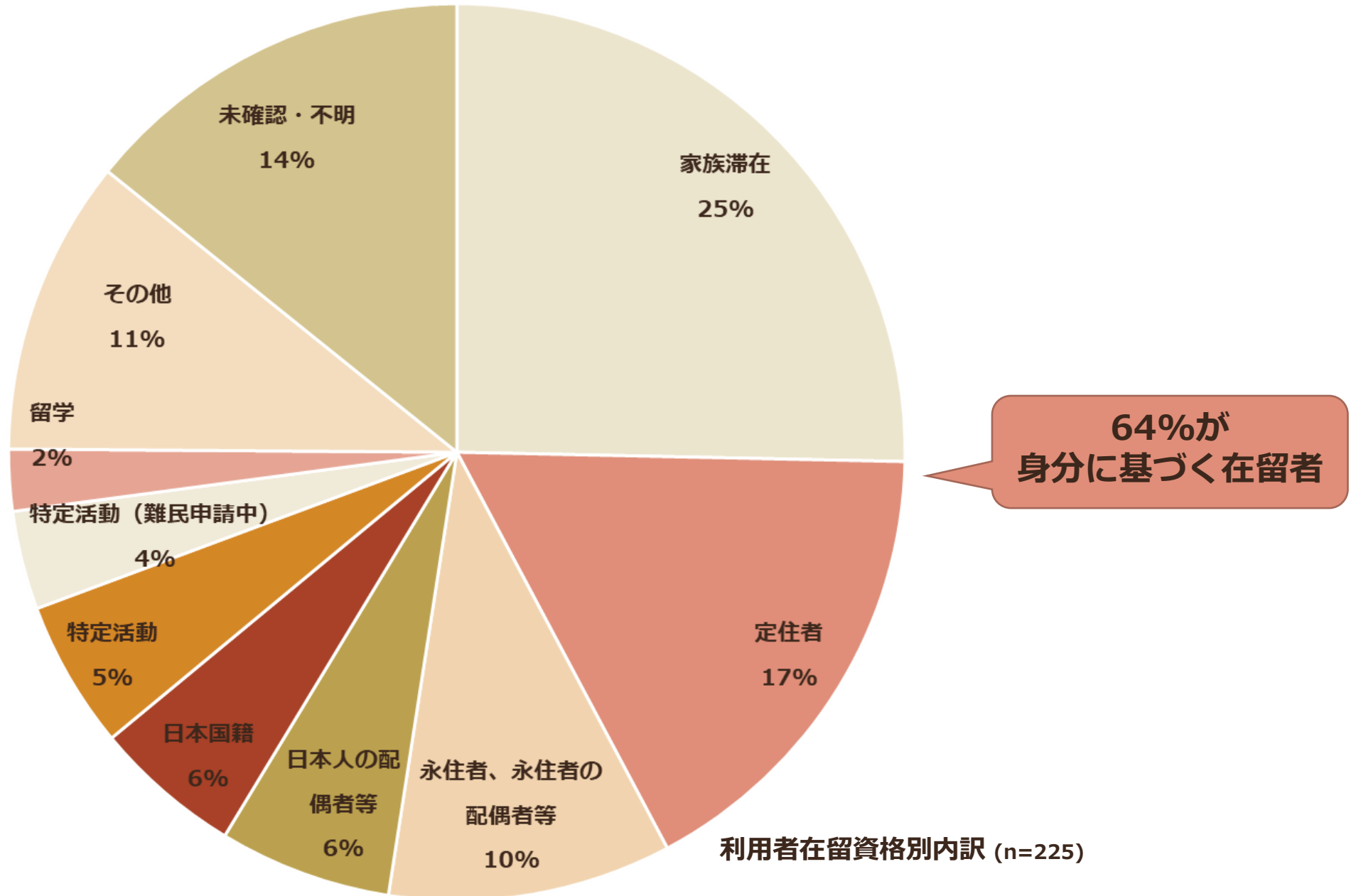
受け入れ体制の地域間格差（特に外国人散在地域）

ボランティア・NPO等による支援の限界

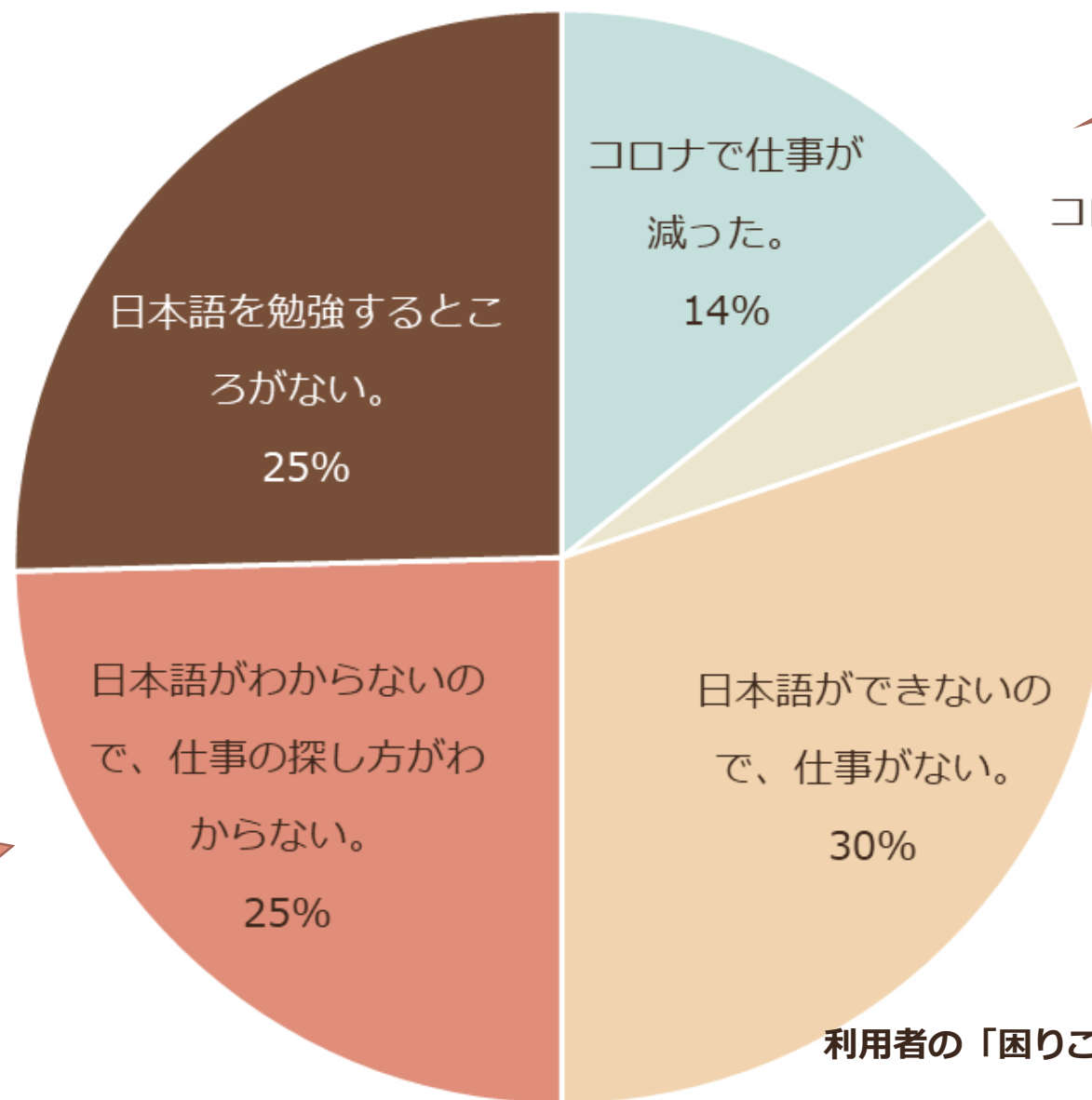
「日本語がわからないだけ」の影響は子どものライフキャリア全般に及ぶ→日本社会全体の課題

「教育」の壁の先に「心の壁」が存在（いじめ・差別）

## 【若者・外国人保護者緊急就労支援事業利用者内訳】 ＊1月31日時点の集計



## 【若者・外国人保護者緊急就労支援事業利用者内訳】 ＊1月31日時点の集計



20%がコロナ禍で失業・減収

55%が「日本語の壁」で(再)就労に困難

# コロナ禍の影響

## 外国人保護者の経済状況が悪化

- ・ 各支援金や給付金等の情報が届いていない  
情報があっても実際の申請行動がとれない
- ・ 給付金や貸付金などを使い果たしてしまった  
(知人間やコミュニティ内での借金を重ねるケースも)

## 進学への影響

- ・ 進学資金が準備できず、進学断念
- ・ 高校等入試合格後、入学前に必要となる制服や学用品購入のための資金目途が立たないまま受験に臨む家庭も。「一時的な立替払い」ですら困難

## 転居による不就学リスクの増加

- ・ 仕事が見つからず他県へ転居する際に子どもの不就学リスクが増大する懸念。

## 日本語教育機会の一層の減少

高齢ボランティアの感染リスク等から、活動休止したまま再開できない団体も

平時から弱かったところがさらに弱く…

教育支援事業（YSCグローバル・スクール）独自奨学金受給者の変化

